

医療プロフェッショナリズムⅢ

ナンバリング

M3-S1-F05

責任者・コーディネーター		医学教育学分野 高田 亮 教授			
担当講座・学科（分野）		医学教育学分野、医療安全学講座、呼吸器内科分野、衛生学公衆衛生学講座、救急・災害医学講座、看護部			
担当教員		高田 亮 教授、肥田 圭介 教授、佐藤 洋一 名誉教授、長島 広相 特任准教授、田鎖 愛理 講師、佐藤 正幸 助教、看護部看護師			
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	7コマ	14.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	7コマ	14.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師法改正に伴い、student doctorの立ち位置が明確になり、認定された医学生は指導医の監視の下、患者に対し医行為を行うことが認められることとなった。患者に医行為を行うにあたっては、疾患に対する知識や技能を身につけるのみではなく、医療者としての社会的責任を自覚すること、すなわち医療プロフェッショナルとしての行動・態度が求められる。本科目では、医療安全、医療関連感染症対策、保健医療、診療報酬制度など、多岐にわたる医療現場の現実を理解し、医療者としての役割と責任を自覚する。また医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について省察することを目的として、医療プロフェッショナリズムに関する講義を行うと共に、救急車同乗体験研修、救急心肺蘇生法実習を行う。

・教育成果（アウトカム）

臨床現場に対応した医療安全や医療関連感染症対策を理解することで、医療者としての役割と責任を自覚できるようになる。診療報酬制度を理解することで、将来的に医師として診療を行う際に必要な知識とスキルを身につける事ができる。保健医療の概念と政策を理解することで、地域医療に関する理解を深め、地域医療研修を充実したものにすることができる。救急心肺蘇生法実習においては、医師に求められる最も基本的な技能を身に付けるとともに、医師としてのプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できるようになる。当直体験実習においては、消防士や医療スタッフの行動を観察することで、医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度に照らし合わせて、自らの行動を省察するとともに、社会生活における初期治療・救急医療の重要性を説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療関連感染制御における標準予防策、経路別感染対策、医療従事者の感染予防について説明できる。
2	社会保障の概要と医師の果たすべき役割を説明できる。
3	疾病予防に関する枠組み（一次予防、二次予防、三次予防）を説明できる。
4	地域保健医療の現状と課題を説明できる。
5	診療報酬制度の目的を説明できる。
6	診療報酬点数の算定方法を説明できる。
7	診療報酬に関する具体的な問題に対して、適切な解決策を提案できる。
8	医療安全とは何か、その意義を理解し説明できる。
9	マインドフルネスの概念、歴史、様々な実践方法を説明できる。
10	医療現場でマインドフルネスを活かす具体的な方法を説明できる。
11	医療者、医師に必要なプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できる。
12	救急蘇生法を学び、実践できる。
13	初期治療・救急医療について現場を見聞し、その重要性を説明できる。
14	消防士や医療従事者の動きを学び、今の自分に何が必要か省察できる。
15	同僚・医療スタッフ・消防士と良好なコミュニケーションをとることができる。

・ 講義場所

講義：配属先の教員が指定する場所

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/30(金)	1	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	医療関連感染制御について1	1
講義	6/6(金)	1	衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師	保健医療概論	2,3,4
講義	6/13(金)	1	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	医療関連感染制御について2	1
講義	6/17(火)	3	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	診療報酬制度について1	5,6
講義	6/17(火)	4	医学教育学分野	佐藤 洋一 名誉教授	診療報酬制度について2	5,6,7
講義	6/24(火)	3	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全について	1,8
講義	6/24(火)	4	医学教育学分野	高田 亮 教授	プロフェッショナリズム講義	9,10,11
実習	10/28(火)	3	救急・災害医学講座 看護部	佐藤 正幸 助教 看護部看護師	心肺蘇生法実習	11,12
実習	10/28(火)	4	救急・災害医学講座 看護部	佐藤 正幸 助教 看護部看護師	心肺蘇生法実習	11,12
実習	5～7月			消防士	救急車同乗体験実習	11,13,14,15

・ 教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（1.0版）	医療系大学間共用試験実施評価機構	医療系大学間共用試験実施評価機構	
参考書	診察ができるVol.1 身体診察		MEDIC MEDIA	2023
参考書	医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版	モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会	文部科学省	2022
参考書	岩手県保健医療計画	岩手県	岩手県	2024
参考書	健康いわた21プラン（第三次）	岩手県	岩手県	2024
参考書	シンプル衛生公衆衛生学2025	辻一郎 監修、上島通浩、大久保孝義 編集	南江堂	2025
参考書	ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版	2013

・ 成績評価方法

【総括評価】 講義・実習後の小テストとレポートで総括評価を行う。前期・後期進級試験では評価を行わない。 講義・実習を欠席した場合は、正当な理由を記載した欠席届が提出されているときのみ代替の評価を行う。 100点満点のうち60点以上を合格とする。各講義・実習の評価方法と配点は以下の通りである。 ◎感染制御・医療安全講義（30点） ・講義終了時に行う小テストで評価を行う ◎社会保障制度（地域保健医療、診療報酬制度）講義（30点） ・講義終了時に行う小テストで評価を行う ・グループワークのプロダクトと講義後のレポートで評価を行う ◎プロフェッショナリズム講義（10点） ・講義後に提出するレポートで評価を行う ◎救急心肺蘇生法実習（10点） ・救急心肺蘇生用SEAレポートで評価を行う ◎救急車同乗体験実習（20点） ・救急車同乗体験用SEAレポートで評価を行う（10点） ・救急車同乗体験を通して医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について考察し、今の自分が改善していくべき行動・態度について省察したレポート（800～1200字）で評価を行う（10点） レポートは実習終了後2週間以内に提出すること。遅れた場合には採点后0.6をかけた点数を評価とする。ただし、1か月以上遅れた場合には評価をしない（0点）。 【形成的評価】 十分な考察あるいは省察がなされていないと判断したレポートに対してはフィードバックし、再提出もしくは別課題のレポートの提出を求める。
--

・特記事項・その他

【救急車同乗体験研修】

日時：〔男子〕令和6年5月～7月 金・土曜日 17時～翌朝8時

〔女子〕令和6年5月～7月 土曜日 9時～17時

場所：盛岡地区広域消防組合（令和5年度実績 盛岡中央消防署、盛岡中央消防署上田出張所、盛岡西消防署、盛岡西消防署城西出張所、盛岡南消防署、紫波消防署）

【救急心肺蘇生法研修】

日時：令和6年10月29日 火曜日 3～5時限（クラスを3グループに分けて実施）

場所：災害時地域医療教育センター

講義資料はWebclassで配信する。

本科目では、事前事後学修以外に450分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

講義室、実習室、シミュレーター、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			